

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200650
法人名	社会福祉法人 杉の子会
事業所名	グループホーム廣寿苑
所在地	愛媛県今治市南大門町3丁目3-33
自己評価作成日	平成27年7月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活を共にする中で、利用者様の真のニーズを理解し、個々の希望の実現化の実践に取り組んでいます。(毎水曜日には遠出の外出、買い物外出、馴染みの場所への誘導)
 三大ケアの食事においては、希望や季節感を取り入れながら満足ある食事提供を行い、排泄・入浴は状態に合わせた清潔保持を心掛けています。
 又、日々進化しつつある知識・介護技術などの習得に努め、利用者様が安全で安心できるケアを目指し、ご家族とのより良い関係づくりの構築にも努力を惜しみません。

開設してから12年目を迎える事業所は、昨年、今治市の協力を得ながら「今治市グループホーム交流会」の立ち上げに関わるなど、認知症ケアにおいて中心的に活動している。交流会へは職員も交代で参加し、活動や交流をする中で利用者主体の事業所を作っていこうという、更なる意欲向上につながっている。同会を立ち上げた経験豊富な管理者は、厳しくも利用者主体のケアを実施できるよう熱心に取り組んでいるため、その姿勢に職員も共感し、各々職員が、どうすれば利用者一人ひとりを尊重したケアが行えるかを考えながら働いている様子が伺える。その中で、事業所が特に力を入れている「個別対応ケア」は、毎日の個別ケアに加え、ユニット毎に個別対応をする特別日を決め、個々の思いを優先して叶える日として取り組まれている。利用者は、日々意欲や張り合いを持ちながら平穏で落ち着いた生活ができており、その人らしい暮らしの実現につながっている。今後の事業所の取組みに増々の期待が寄せられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム廣寿苑

(ユニット名) さくら

記入者(管理者)

氏名 妹尾美地子

評価完了日 平成 27年 7月 10日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 全職員が考えた理念「誰もが気軽に立ち寄り喜怒哀楽を共にし、当たり前暮らしが送れるよう支援してまいります」と、活動方針「笑い声が聞こえ美味しい食事の匂いがする」を基に、常に利用者が必要とされているサービス提供ができ、満足に繋がるよう日々話し合い実践している。</p> <p>(外部評価) 利用者一人ひとりの生活を大切にしながら支援をしたいという職員の思いが込められ、自然に意識できるような理念となっている。ここ1年で新入職員が数名配属されたが、同じ理念のもとケアが実施できるように、管理者と各ユニット主任が中心となり指導していることもあり、どの職員も理念に沿いながら「地域」を意識した「個別対応ケア」に取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事に参加し、苑周辺の散歩時はあいさつを交わすことで顔を覚えて頂き、又、自施設の夏祭りでは、婦人会、推進会メンバー、近隣者の方々の参加が年々増え、事業所への理解も広がってきている。</p> <p>(外部評価) 婦人会の協力を得て行事を行ったり、地区の行事に参加したりと、12年の歳月を通して地域との協力関係が作られている。近所の人が見学したいとふらっと立ち寄った際にも温かく迎え入れるなど、地域に根ざした事業所となっている。地域交流の中心となっていた小学校が閉鎖されたため、今後は近隣幼稚園との交流を予定しており、近隣の高校生や大学生の体験交流の受け入れも行っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 認知症になっても、地域の中で当たり前暮らしすることの大切さ、周囲の人の理解や接し方の勉強会を行っている。又、短大生の実習や高校生の職場体験も定期的に受け入れ、地域における認知症ケアの推進を図っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>2か月に1回苑便りを作成し、家族・利用者・民生委員・公民館長・行政（包括支援センター）など参加の下、活動報告を行っている。その中で課題へのアドバイスや率直な意見を頂いたり、専門的な意見交換を行いながら管理者・主任を中心にサービス向上、改善に努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議は、利用者、家族、地域住民代表、民生委員、公民館長、地域包括支援センター職員の参加を得て、2か月に1回開催されている。利用者状況報告のほか活動内容について活発な意見交換が行われており、議事録は参加していない家族や職員にも配布、回覧され共有されている。会議で出た意見やアドバイスは必ず検討し、事業所の運営や利用者のケアに活かす努力がされている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>行政協力の下、今治市GH交流会を前年度に立ち上げ、行政にも参加して頂き、認知症に対する知識をより深めていけるよう取り組んでいる</p> <p>(外部評価)</p> <p>市役所が近くにあるため頻回に市役所に足を運び、相談できる関係ができています。昨年度、事業所が中心となって「今治市グループホーム交流会」を設立した際には、市の協力支援を得ることができた。会合の内容は市担当者へ報告されており、グループホームの運営や認知症ケアの実情を把握することに役立っている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>法人内の身体拘束防止委員会にて、定期的な勉強会を実施し、内容については全職員が共有できるよう職員会にて話し合い、拘束のないケアを実施できている。施錠については、防犯上夜間には行うが、他は開放し利用者に寄り添いながら自由な暮らしが送れるよう支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>日中、玄関や履き出し窓は開放されており、利用者は自由に入出することができている。一人で外出する利用者には、担当者を決めて30分毎に様子を確認する等、常に見守りを心がけている。無断外出した場合も、無理やり連れ戻すのではなく、さりげなく声をかけ一緒について行くなどして、利用者の精神的拘束とならないよう配慮している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人内で虐待廃止委員会を定期的に開催し、職員会や勉強会、日々の申し送りなどの中で、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や、遵守に向けた取り組みを行い、事業所内で防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護、成年後見制度に関する研修会に参加し、都度勉強会を行っています。又、随時、関係機関にも協力いただき、安心して活用ができるよう取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居契約時には、書類の説明、事業所の考え方や取り組み、退居までを含めた対応の可能な範囲についての説明を行っている。又、利用者の状態変化により契約解除に至る場合は、家族等と対応方針の相談と理解、納得を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 来訪時やカンファレンス、3か月に1度の家族会、食事会などで利用者の生活状況の報告を行い、本人の希望、家族からの意見要望をお伺いしている。又、玄関に投票箱を設置したり、毎月の介護経過評価表に家族の意見要望記入欄を設け、意見を反映させ、日々のケアに活かしている。	
			(外部評価) 3か月に1回家族会を実施したり、介護計画のサービス担当者会議に必ず家族が参加するなど、家族との交流の機会を頻繁に持つことで信頼関係が深まっている。家族会は同じ悩みを抱えた家族同士が話し交流を深める機会ともなっており、家族は食事づくりから片づけまで一緒に行い、食事を共にしながら自由に話しをすることができている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 合同ミーティング・勉強会・研修への複数参加など、日頃よりコミュニケーションを図るよう心掛け、信頼関係の構築に努めている。又、運営者には現場での報告を密に行い、職員の意見を反映させながら質の向上に取り組んでいる。	
			(外部評価) 管理者は、日頃から職員の様子を気にかけて積極的に声をかけ、働きやすい環境作りに取り組んでいる。現場職員が意見や要望を言いやすくなるよう日頃から話し合いの機会を多く持つようにしている。また、研修を奨励しており、勤務調整を行って参加しやすいように配慮することで、職員の意欲向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 皆で協力し合い、勤務シフトに希望休を取り入れ、楽しく就業できるよう工夫している。又、各職員の努力や成果について把握し、向上心を持ち働けるよう職能評価を行っている。又、資格取得に向けての支援も行い、その成果も表れている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修案内を事務所やホーム内に掲示し参加を促し、各自の立場、経験や習熟度の段階に応じた研修の機会を計画的に確保、職員の質の向上に向けた育成に取り組んでいる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 今治市GH交流会を2カ月に1回開催し、質の向上を目指した研修内容を年間計画し、グループワーク方式で話し合い、ケアの向上を目指すと共にお互いの施設訪問の機会を取り入れ、交流を図っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面談にて生活状態の把握ができるよう、ご本人の不安や求められていることなどを把握し受け止め、安心して頂けるような関係づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) これまでの生活歴や、サービスを利用に至った経緯など、ゆっくりと傾聴し把握した上で、今後事業所としてどのような対応ができるか事前に話し合いができています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人、ご家族の思いや状況等を都度確認し、今、必要であるサービス情報を迅速かつ的確に提供できるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活を共に過ごす中で、利用者の喜怒哀楽に関心を寄せながら、お互い支え、支えられていることを理解し、協力しながら、ホームの理念である当たり前の暮らしが安心して送れるような雰囲気作りや声掛けを行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 誕生会・そうめん流し・夏祭り・餅つき・家族会、食事会などの行事の際には、家族への参加を呼びかけ、面会時も利用しながら、利用者・家族・職員が三位一体となり、楽しみながら交流を深め合い、より良い関係作りができています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 今まで生きてこられた生活の中で、本人が支え、支えられてきた大切な人間関係を把握するよう努め、電話連絡や訪問が気軽にでき、週1回個別対応の日を設け、思い出の場所等をドライブで訪れる機会を持っている。 (外部評価) 特に「個別対応ケア」に力を入れているため、入居前の馴染みの関係性が途切れないよう配慮したケアに留意しており、家族の協力を得て定期的に馴染みのカラオケ店へ歌いに行ったり、親しい人との交流を楽しめるよう支援している。その時の利用者の表情は生き生きしており、入居前の馴染みの関係が継続できることの大切さを理解している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 時間帯により、心身状態の変化が見られる為、注意深く見守りながら、レクリエーション・軽作業を通じ、利用者同士の関係がうまくいくよう、職員が仲介役となりながら支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居された後も、入院された利用者の面会を行ったり、ご家族の相談を受け、必要に応じた施設紹介等も行い、継続的な関わりができるよう心掛けている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常の利用者の言動、表情などからその心情を察し、傾聴することで真意を確認したり、意思疎通が困難であればご家族様からも情報を得ている。毎月ケアプラン経過報告のコメントを頂き、3か月に1回実施のカンファレンスでは、家族参加を促し希望実現となるよう努めている。 (外部評価) 日々、個別対応を心がけたケアを実施しているが、その中でも特別に「個別対応の日」を決め、一人ひとりの思いを叶えられるよう取り組んでいる。「外出をしてステーキを食べたい。」という利用者の願いに応じて外食に付き添ったりしている。そこで普段では聞けない思いを話してもらえることもあり、利用者がどのように暮らしていきたいと思っているか一緒に考える機会にもなっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 馴染みがあり、使い慣れた私物を居室に置き、親しみのある環境づくりをしたり、個々の希望に応じ散歩、買い物などの個別対応に努めている。又、センター方式の一部を活用し、家族の協力を得ながら生活歴・馴染みの暮らし等を把握し、それらをケアプランに反映し継続できるよう支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個々の体調変化の早期発見の為、毎日のバイタルチェックを実施し、食事量・排泄回数・睡眠時間などを個別チェック表に記載し活用している。又、個々の生活リズムを大切にしながら、できることやわかる力を、暮らしの中で発見できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 本人、家族、担当職員などの参加の下カンファレンスを実施。又、勉強会等を利用し、全員が見直しをする機会を設け意見を出し合っている。ケア内容は介護記録時いつも確認できるようファイルし、経過記録表は担当職員が記入、介護計画作成者が確認。又、コメント・サインを頂き、より適した計画作成に努めている。</p> <p>(外部評価) 介護計画は個別的、具体的で、職員が現場で実施可能な支援内容となっており、毎日担当者がモニタリングを行い、介護支援専門員が毎月総合評価を行っている。事業所独自の記録様式を作成し、忙しい現場でもモニタリングがしやすいよう工夫がされている。介護計画は、ICF(国際生活機能分類)の考え方に基づいて作られ、利用者の望む暮らしの実現に努めている。3か月に1回、利用者や家族を含めたサービス担当者会議を実施しており、相互に理解を深めながら次のステップへと繋げることができている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) ケアプランに沿った個別チェック表を作成実践し、本人の言葉やエピソードなど、新たな気づきや工夫は介護記録に記載。月1回の評価を担当職員が行い、モニタリングする中で情報共有し、それらを基に意見を出し合い、介護計画の見直しを行っている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 医療連携体制を活かし、月2回の往診の協力を得たり、利用者の状況や緊急性に応じて受診や通院送迎などの対応を行っている。又、本人や家族の要望に応じて外泊や外出の支援も行っている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 近隣の神社やお寺、小学校行事、地方祭、近所の喫茶店や買い物など体調の考慮をしながら外出し、馴染みの方との交流を楽しみにしている。又、家族の協力を得、行きつけの美容院へ出かけたり、在宅時に培われた交友関係を継続する支援も行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力病院医師の月2回の往診の利用や、利用者個々のかかり つけ医を持ち、ご家族様付添いにて受診をされる。緊急時や ご家族の都合で協力を得られない場合は主に看護師が同行。 家族同行時は介護要約書を担当医にお渡しし、適切な医療が 得られるよう支援している。 (外部評価) 入居前の医療機関を安心して受診できるよう支援している。 受診の際は、介護要約記録やバイタルチェック表を家族に持 参してもらい、主治医と情報を共有するよう工夫している。 職員は診療内容や複数医療機関の処方内容を把握するよう努 めており、気づいた点を主治医へ報告している。その結果、 むくみが強かった利用者が薬を調整することで改善するな ど、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ホーム内に看護師を配置し、常に利用者の健康管理を行い、 24時間体制で状況に応じた支援を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には介護サマリーを提供し、医師・看護師との情報交 換を行い、回復状態を見ながら、退院となった時にスムーズ に施設での生活に戻れるよう連携を図っている。又、ご家族 とも情報交換をしながら速やかな退院支援に結び付けてい る。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りについては、契約時、指針に沿って事業所が対応しう る最大のケアについて説明し、理解・同意を得ている。又、 身体や精神面での状況の変化については、家族会やカンファ レンス時以外にも必要と思われる時には随時話し合いを行っ ている。 (外部評価) 入居時、本人や家族に重度化した場合や終末期に事業所が対 応できる範囲について説明を行い理解を得ている。医療行為 が必要となった時は、どのように対応すれば利用者や家族に とって最善であるかということについて、話し合いを繰り返 し誠実な対応ができるよう努力をしている。また、併設され ている有料老人ホームでは看取りケアを行っており、転居し てケアを受けることもできるため利用者の安心に繋がってい る。	現在までに事業所で看取りを行った経験はないが、家族から 最期まで事業所で見てもらいたという希望が増えてきてお り、管理者は今後は要望に応じていきたいと考えている。整 備されている看取り体制に加え実際の場面で職員が不安なく 対応できるよう、看取りケアを実施している他の事業所との 体験交流を行ったり、研修の機会を増やすなどしながら、利 用者や家族の希望に対応できることを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救急対応については、初期対応がスムーズに行えるよう、救急法やAEDの使い方の講習を受け、ミーティング時定期的に勉強会を行っている。夜間時の緊急対応についてもマニュアルを作成し、常にすぐ見られるところに置いてある。又、ひやりハットノートを活用し、事故防止に努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 利用者の歩行レベル、移動手段が一目でわかるよう業務日誌に記載し共有、消火器の位置や避難経路を全職員が把握している。また、法人での災害訓練時には地域の方にも呼びかけ参加して頂いている。 (外部評価) 敷地内にある併設施設と一緒に、地区住民も参加し昼夜を想定した防災訓練を実施している。特に夜間の災害時には、併設施設の職員からも協力が得られる体制が整っている。事業所は耐震性のある建築物のため、地区の福祉避難所にも指定され地域住民にも認知してもらっており、相互の協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人一人の性格や生活歴を知り、人格を尊重し、プライバシーにも配慮しながら、一番心地よい呼び名や声掛けを心掛けている。又、職員の言動口調など、利用者の自尊心を傷付けないよう注意し合い、意識向上を図っている。 (外部評価) 事業所の庭にあるサツマイモ畑は、利用者が懇切丁寧に手入れしており、利用者の生き生きと話す表情が印象的であった。事業所では、日頃の生活の中で声かけやコミュニケーションを大切にし、その人自身の思いや生活歴を理解した上で、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 共に過ごしていく中で、利用者の表情を読み取り、外出場所の選択、購入物の選択決断、衣類の選択など、些細なことでも利用者自身が意思決定できるようゆったりと待ち、希望が叶うよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人が日々その人らしく暮らせるようその時々の望みを大切に、買い物や散歩など個々に合わせた支援を行っている。又、軽作業や家事仕事などは自主性も汲み取りながら感謝の意を伝え、無理のないよう行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 日々、男性らしく、女性らしく身だしなみを整え、個々に合わせたお洒落ができるようサポートしている。又、できることを大切に、見守りながら馴染みの美容室や訪問美容師によるお洒落を楽しまれている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 何よりの楽しみである「食」に関して、料理盛り付けにも積極的に参加していただき、彩りや香りなどの工夫をし、作って、見て、食べて楽しめるよう様々な取り組みを試みている。月2回は利用者の希望を聞きながら献立をたてる自由食を取り入れ、より食事が楽しめる工夫をしている。 (外部評価) 旬の食材、味付けや品数等栄養面に配慮しながら利用者の希望を取り入れて、法人で立てたメニューを臨機応変に変更しながら職員が調理している。そうめん流し用の長い竹を準備したり、誕生日には行事食を取り入れたり、個別対応の日には外食し好きなものを食べるなどして食事を楽しめるよう工夫している。また、職員も一緒に食卓を囲み、和やかな雰囲気でき食事ができるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士の作成した献立表を基に利用者と相談しながらその日のメニューを決定。個々の咀嚼や嚥下状態に合った調理方法を行い、バランスの良い食事を提供している。又、飲水摂取量・排泄を個別にチェックし、体重増加や水分不足が起こらないよう健康管理に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯科受診者は医師よりアドバイスを受け、毎食後、一人一人に合った口腔ケアを実施。口腔ケアセットは夜勤帯で毎日消毒し、清潔保持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>日中は可能な限りトイレでの排泄ができるよう、個々の排泄パターンや兆候に合わせて声掛け誘導を行う支援をしている。なるべく布の下着を用い、必要であれば時間や量に合わせた排泄用品の使い分けを行い、排泄後は洗浄や清拭を実施。常に気持ちの良い状態で過ごせるよう工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するだけでなく、排泄物の量もチェックしながら排泄用品を使い分け支援している。日中はなるべくトイレで排泄ができるよう支援し、夜間は睡眠に配慮して適切な排泄用品を選択して一人ひとりに合わせた排泄介助に取り組んでいる。また、温かいおしぼりを常備し、衛生面にも配慮しながら排泄支援をしている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>毎朝、ヨーグルトや牛乳などの乳製品や繊維質の食材を取り入れ、適度な運動や腹部マッサージを働きかけ、自然排便ができるよう取り組んでいる。又、食事摂取量・排尿・排便チェックを行い、必要であれば担当医に報告し個々にあった処方がなされている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>本人の希望や、個々の生活習慣に合わせた自由な入浴を心掛け、場合によっては夜間入浴も取り入れている。浴室内は安全第一に考えたうえで、明るく飾り付け、楽しくくつろげる場所になるよう工夫している。入浴後はドライヤーで足指間の乾燥を行い、白癬菌の予防や清潔保持に努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>浴槽の壁に飾り付けをし、それがきっかけで楽しい会話がはずむなど、利用者がリラックスし気持ちよく入浴できるよう心がけている。また、重度化し事業所の浴槽では入浴ができない場合は、家族と話し合いを持ちながら対応したり、シャワーチェアや滑り止めマットなどの福祉機器を活用し、安全に入浴できるよう支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>日中の活動量を一人一人調節しながら休息も取り入れ生活のリズムを作っている。昼空間も利用し自ら横になったり、夕食後はテレビ鑑賞をしながら雑談やお茶を楽しむなど、ゆったり過ごせ安眠に繋がる工夫を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の管理は各自の担当職員が処方内容を把握し、セットを行い、収納管理をしている。服薬時は名前・日付・時間をご本人の前で声に出し、確認を行ってから内服終了までを見届ける等、安全確認を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人一人の経験や生活習慣を大切にし、趣味や特技、又、家事仕事などの当り前の作業などから、役割や楽しみごとを作り出し、生活に活気と潤いがある支援を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天候と相談しながら、日々の利用者の状態や希望、季節などその時々状況に応じて、一人ひとりが外出を楽しめる支援を行っている。特に、住み慣れた場所に行ったり記憶にある方の面会など、今望んでいることの実現を目指している。又、ご家族様面会時には、同行外出の協力も得、穏やかな時が過ごせられるよう援助している。 (外部評価) 梅、桜、バラ、紫陽花、紅葉等季節の花々を楽しんだり、初詣、芋炊き、外食に出かけるなど、外出する機会を多く持てるよう支援している。また、日常的に事業所周辺の散歩や買い物など、外出できるよう配慮している。特に「個別対応の日」には、利用者の望む場所へ出かけることで、利用者の五感への刺激になり気分転換やストレス発散にもつながっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小遣いはホームの金庫で保管し、外出時には個々の金銭管理能力に合わせた支援を行い、買い物を楽しんで頂いている。週1回の訪問パン販売を楽しみにされ好きなものを選ぶ楽しみを持って頂いている。又、小遣い帳で管理し、ご家族来苑時に確認して頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は誰でも希望時に掛けられるようにしている。中には自分の言葉で手紙やハガキを書き送ることを望まれる方がおられ、希望に応じ投函介助等を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>フロアや玄関には、季節の花や壁面飾りで季節感を取り入れ、利用者手作りの座布団を敷いたソファやベンチで、ゆったり過ごせるよう工夫している。共有空間がより居心地良く、安心できる場所になるよう、ゆったりとした音楽を流したり、テレビで好きな番組を観たりと、何気ない当たり前の生活を大切にしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>共有空間には、月毎に利用者と職員合作の作品が飾りつけられ季節感がある。対面式のキッチンからは調理の音や臭いが伝わり、リビングには椅子席とソファ席があり、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。窓を開けると畑を見渡すことができ、野菜の収穫は利用者の楽しみになっている。また、トイレや浴槽、居室などの表示は利用者の意見を取り入れ分かりやすいよう工夫されている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>フロアには畳の空間を作り、寝転がって休んだり、数人で談笑や協力して作業ができる場所を確保し、思い思い好きなことができるよう工夫している。少人数で利用者同士がくつろいだり、一人でゆったり過ごせるよう支援している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>馴染みのある、使い慣れた用品に囲まれ、心地よく暮らして頂けるよう支援している。また、写真やお位牌などを持ち込み、毎朝お供えをし手を合わせるといふ、自宅と変わらぬ生活を継続している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室にはエアコン、ベッド、床頭台、整理たんす、椅子洗面台が備え付けられ、入り口には、自分の部屋だと分かるような大きな表札が掲げられている。利用者がいつでもご先祖へ手を合わせることができるよう自宅から仏壇や位牌、遺影を持ち込めるようになっている。職員は、お供え用のご飯や水を替えたり、お花をお供えするなどの配慮をしており、利用者が安心して生活が送れるよう支援している。また、シーツと枕カバーは事業所から提供しており、衛生面を考慮し定期的に交換が行われている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>トイレ、居室等には認識できるよう、身体レベルに合った高さなどに配慮しながら目印をつけ、自分の「わかること」の力を活かして動けるような設えをし工夫している。又、安全な動線確保や環境作りを行いつつ、利用者の自立を意識した環境作りを行っている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200650
法人名	社会福祉法人 杉の子会
事業所名	グループホーム廣寿苑
所在地	愛媛県今治市南大門町3丁目3-33
自己評価作成日	平成27年7月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活を共にする中で、利用者様の真のニーズを理解し、個々の希望の実現化の実践に取り組んでいます。(毎水曜日には遠出の外出、買い物の外出、馴染みの場所への誘導)
 三大ケアの食事においては、希望や季節感を取り入れながら満足ある食事提供を行い、排泄・入浴は状態に合わせた清潔保持を心掛けています。
 又、日々進化しつつある知識・介護技術などの習得に努め、利用者様が安全で安心できるケアを目指し、ご家族とのより良い関係づくりの構築にも努力を惜しみません。

開設してより12年目を迎える事業所は、昨年、今治市の協力を得ながら「今治グループホーム交流会」の立ち上げに関わるなど、認知症ケアにおいて中心的に活動している。交流会へは職員も交代で参加し、活動や交流をする中で利用者主体の事業所を作っていこうという、更なる意欲向上につながっている。同会を立ち上げた経験豊富な管理者は、厳しくも利用者主体のケアを実施できるよう模索し取り組んでいるため、その姿勢に職員も共感し、各々職員が、どうすれば利用者一人ひとりを尊重したケアが行えるかを考えながら取り組んでいる様子が伺える。その中で、事業所が特に力を入れている「個別対応ケア」は、毎日の個別ケアに加え、ユニット毎に個別対応をする特別日を決め、個々の思いを優先して叶える日として取り組まれている。利用者は、日々意欲や張り合いを持ちながら平穏で落ち着いた生活ができており、その人らしい暮らしの実現につながっている。今後の事業所の取り組みに増々の期待が寄せられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

事業所名	グループホーム廣寿苑
(ユニット名)	うめ
記入者(管理者)	
氏名	妹尾美地子
評価完了日	平成 27 年 7 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 自ホームの理念「誰もが気軽に立ち寄り喜怒哀楽を共にし当たり前の暮らしが送れるよう支援してまいります」と活動方針「楽しい歌声が響き皆の笑顔がある」を基に利用者個々に必要とされるサービスが提供できるよう、職員間のコミュニケーションを図り話し合いながら実践している。</p> <p>(外部評価) 利用者一人ひとりの生活を大切にしながら支援をしたいという職員の思いが込められ、自然に意識できるような理念となっている。ここ1年で新入職員が数名配属されたが、同じ理念のもとケアが実施できるように、管理者と各ユニット主任が中心となり指導していることもあり、どの職員も理念に沿いながら「地域」を意識した「個別対応ケア」に取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事や小学校行事には都度参加させていただき、自施設の夏祭りには婦人会始め地域の方々の参加も年々増加している。また、近隣のスーパーへの買い物や散歩により声を掛けて頂く機会も多く、事業所への理解も広がってきている。ただ、近隣小学校が閉校となったため今後は地域幼稚園との交流に向け話し合いを進めている。</p> <p>(外部評価) 婦人会の協力を得て行事を行ったり、地区の行事に参加したりと、12年の歳月を通して地域との協力関係が作られている。近所の人が見学したいとふらっと立ち寄った際にも温かく迎え入れるなど、地域に根ざした事業所となっている。地域交流の中心となっていた小学校が閉鎖されたため、今後は近隣幼稚園との交流を予定しており、近隣の高校生や大学生の体験交流の受け入れも行っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議の中での活動報告や認知症に関する勉強会を開き、地域における認知症ケアの推進を図っている。また、今治市のグループホーム交流会を立ち上げ全施設のレベルの向上に努め、各職員のスキルアップを図り、各利用者のご家族、地域へと認知症に対する理解が広まってきている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) サービス、活動の報告に対する多方面（ご家族・利用者・民生委員・行政など）からの意見交換の場とし、管理者、主任を中心にサービスの向上、改善に努めている。また、2か月に1回発行する苑便りによる報告により率直な意見やアドバイスを頂いている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は、利用者、家族、地域住民代表、民生委員、公民館長、地域包括支援センター職員の参加を得て、2か月に1回開催されている。利用者状況報告のほか活動内容について活発な意見交換が行われており、議事録は参加していない家族や職員にも配布、回覧され共有されている。会議で出た意見やアドバイスは必ず検討し、事業所の運営や利用者のケアに活かす努力がされている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 推進会議メンバーである行政担当者に協力を頂き情報を集めたり、課題を提供して頂いたりしながら事業者の現状を共有している。また、今治市グループホーム交流会には行政の参加を頂くなどで連携を深めている。</p> <p>(外部評価) 市役所が近くにあるため頻回に市役所に足を運び、相談できる関係ができている。昨年度、事業所が中心となって「今治市グループホーム交流会」を設立した際には、市の協力支援を得ることができた。会合の内容は市担当者へ報告されており、グループホームの運営や認知症ケアの実情を把握することに役立っている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 法人内での身体拘束防止委員会で定期的な勉強会を実施しており、内容は全職員での勉強会にて共有し拘束のないケアを実施できている。玄関は防犯上夜間のみ施錠。他は開放しており利用者の気持ちに寄り添い自由な暮らしが送れるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 日中、玄関や履き出し窓は開放されており、利用者は自由に入出入りすることができている。一人で外出する利用者には、担当者を決めて30分毎に様子を確認する等、常に見守りを心がけている。無断外出した場合も、無理やり連れ戻すのではなく、さりげなく声をかけ一緒について行くなどして、利用者の精神的拘束とまらないよう配慮している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 定期的に虐待廃止委員会を開催し「絶対あってはならない人権侵害」を念頭に理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。常に利用者の状態観察を行うと共に、職員の心身状態の把握にも努め安心した生活が送れるよう支援している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護や成年後見制度に関する研修を行い都度勉強会を行っている。また、随時関係機関にも協力頂き安心した活用ができるよう取り組んでいるが、現在利用している方はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時には利用者のご家族、事業所で十分な話し合いを持ち、書類の説明、事業所の考え方や取り組み、退居までを含めた対応の可能な範囲についての説明を行い、要望を伺いながら、理解・納得・同意に繋げている。退居後もその人らしい生活ができるよう次の生活場所への支援を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 3か月に1度の家族会やカンファレンスや随時の来訪時などで利用者の生活状況の報告を行い、本人やご家族の希望、意見要望をお伺いしている。また、毎月の介護経過評価表にご家族記入欄を設け意見を反映させ、日々のケアに活かしている。日々ご家族との付き合いを大切にし、意見を求めやすい関係づくりを行っている。 (外部評価) 3か月に1回家族会を実施したり、介護計画のサービス担当者会議に必ず家族が参加するなど、家族との交流の機会を頻繁に持つことで信頼関係が深まっている。家族会は同じ悩みを抱えた家族同士が話し交流を深める機会ともなっており、家族は食事づくりから片づけまで一緒に行い、食事を共にしながら自由に話しをすることができている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 合同ミーティングや勉強会、研修への参加、また、代表者を含めての食事会などから、より深い信頼関係の構築に努めている。 (外部評価) 管理者は、日頃から職員の様子を気にかけてながら積極的に声をかけ、働きやすい環境作りに取り組んでいる。現場職員が意見や要望を言いやすくなるよう日頃から話し合いの機会を多く持つようにしている。また、研修を奨励しており、勤務調整を行って参加しやすいように配慮することで、職員の意欲向上に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個々の置かれている状況を把握し、皆で協力し合い希望休を取り入れながらシフト作成を心掛け、仕事に集中できる職場づくりに取り組んでいる。また、月に1回の主任との面接を実施し、意欲の向上に繋がっている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修会への参加を奨励し、勉強会にて全職員が共有しレベルアップに努めている。また、月1回のホーム内勉強会ではグループワークも取り入れ、自分の意見を自分の言葉で伝える機会を設け意識向上に取り組んでいる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 平成26年度より今治市グループホーム交流会を立ち上げ2カ月に1回多方面の勉強会を行い、市内全体のグループホームの質の向上に繋がっている。その中でホーム間の相互見学も実施しネットワークの充実や問題提起、解決へと良い関係作りもできている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面談の情報を基に、日常生活の関わりの中で会話の中の言葉や様子に気を付け、利用者の思いを汲み、意思反映ができるよう心掛け、安心な生活を送って頂けるような関係づくりに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前の話し合いの中でこれまでの生活歴やサービス利用に至った経緯、家族の要望などを把握し、事業所としてどのような対応ができるかを考え最善のサービスを提供できるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時の実情を把握し、今、最も必要としている支援を見極め、事業所としての的確な対応ができるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は家族同様の思いを持ち、同じ時間を一緒に過ごし喜怒哀楽を共有することで、お互いに支え支えられていることを理解しながら関係性を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の負担を考慮した上での行事参加、病院受診、面会の協力依頼をお願いし、普段の思いや相談に傾聴し、常にご家族とは気軽に話し合える関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者やご家族からの事前の聞き取りや、日常生活の中で発した言葉を汲み取る中で、今までの生活歴を踏まえ馴染みの人や場所との関係が継続できるよう努めている。特に家族と疎遠にならないよう、面会や受診時には共に過ごす時間を大切にして頂くよう支援している。 (外部評価) 特に「個別対応ケア」に力を入れているため、入居前の馴染みの関係性が途切れないよう配慮したケアに留意しており、家族の協力を得て定期的に馴染みのカラオケ店へ歌いに行ったり、親しい人との交流を楽しめるよう支援している。その時の利用者の表情は生き生きしており、入居前の馴染みの関係が継続できることの大切さを理解している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 心身状態の変化を注意深く見守りながら、リハビリ体操、レクリエーション、行事、食事等利用者同士が同じ時間を共有する中での関わりを大切にしている。また、利用者同士の自主的な関わりも多いため、その時間も大切に、常に傍で見守りを行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) これまでの関係性を尊重し、退居決定時には適切なアドバイスをし、本人、家族のフォローをしている。また、普段より退居後も相談に来ていただけるような関係を築けるような取り組みに努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃より、利用者への個別の声掛け、コミュニケーションを大切にし、表情や言動から希望や意向を汲むよう努めている。また、3ヵ月に1回のカンファレンスや利用者間でのやり取りにも気を配り、傾聴することで真意を確認したりご家族からの情報も得ながら把握に努めている。 (外部評価) 日々、個別対応を心がけたケアを実施しているが、その中でも特別に「個別対応の日」を決め、一人ひとりの思いを叶えられるよう取り組んでいる。「外出をしてステーキを食べたい。」という利用者の願いに応じて外食に付き添ったりしている。そこで普段では聞けない思いを話してもらえ、利用者がどのように暮らしていきたいと思っているか一緒に考える機会にもなっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前の生活環境シートやこれまでのサービス利用状況、面接等で情報収集し、それらが継続できるよう支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 健康観察や記録を徹底し、個別の日常のペースを把握し普段と違い言動や様子の早期発見に努め、申し送りによる情報共有を行っている。また、個々の生活リズムを大切にしながらその時々でできることわかること、できないことわからないことの現状の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 個別の体調変化の早期発見のため毎日のバイタルチェックを実施し、食事量・排泄回数・睡眠時間などで個別チェック表に記載し活用している。また、個々の生活リズムを大切に、その時々でできることわかること、できないことわからないことの現状の把握に努めている。</p> <p>(外部評価) 介護計画は個別的、具体的で、職員が現場で実施可能な支援内容となっており、毎日担当者がモニタリングを行い、介護支援専門員が毎月総合評価を行っている。事業所独自の記録様式を作成し、忙しい現場でもモニタリングがしやすいよう工夫がされている。介護計画は、ICF(国際生活機能分類)の考え方に基いて作られ、利用者の望む暮らしの実現に努めている。3か月に1回、利用者や家族を含めたサービス担当者会議を実施しており、相互に理解を深めながら次のステップへと繋げることができている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) ケアプランに沿った個別チェック表を作成実践し、日常の会話や様子から実践状況や結果、また、新たな気づきを介護記録に記載することにより共有しながら今後の見直しに活かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) その時々本人、家族の状況や緊急性に応じて受診通院送迎など、柔軟な支援を行っている。また、個別対応の日を設け、買い物などそれぞれの小さな希望にも対応できるよう取り組んでいる。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 近隣の神社やお寺へのお参りや地域の祭りなどへの参加をし、地域と密着した行事やサービスを取り入、交流が図れるよう支援している。これまで交流のあった今治小学校が閉校となったが、今後は今治幼稚園との交流活動を計画している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 利用者、ご家族納得のかかりつけ医での受診の継続が でき、介護要約書の活用により医療現場への正しい情 報提供をすることで、適切な医療を受けられる支援を している。緊急時には、職員が同行し対応している。</p> <p>(外部評価) 入居前の医療機関を安心して受診できるよう支援して いる。受診の際は、介護要約記録やバイタルチェック 表を家族に持参してもらい、主治医と情報を共有する よう工夫している。職員は診療内容や複数医療機関の 処方内容を把握するよう努めており、気づいた点を主 治医へ報告している。その結果、むくみが強かった利 用者が薬を調整することで改善するなど、適切な医療 が受けられるよう支援している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 普段からの関わりや観察、バイタル測定等により変調 の早期発見を心掛け24時間体制で看護師への報告、相 談、指示を仰ぎ適切な看護、受診に繋げている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 普段の受診時より要約書の活用などで医療現場との関 係作りを行い、入院時には介護サマリーの提供により 情報共有に努めている。また再三の面会を行い、回復 状態をみながら早期退院に向けての連携を図ってい る。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所のできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 日頃より家族との関わりを大切に、本人や家族の希 望を出来るだけ汲み、看取りについては契約時指針に 沿って事業所が対応し得る最大のケアについて説明 し、理解、同意を得、最良の方法で支援している。</p> <p>(外部評価) 入居時、本人や家族に重度化した場合や終末期に事業 所が対応できる範囲について説明を行い理解を得てい る。医療行為が必要となった時は、どのように対応す れば利用者や家族にとって最善であるかということに ついて、話し合いを繰り返し誠実な対応ができるよう 努力をしている。また、併設されている有料老人ホ ームでは看取りケアを行っており、転居してケアを受け ることもできるため利用者の安心に繋がっている。</p>	<p>現在までに事業所で看取りを行った経験はないが、家 族から最期まで事業所で看てもらいたいという希望が増 えてきており、管理者は今後は要望に応じていきたい と考えている。整備されている看取り体制に加え実際 の場面で職員が不安なく対応できるよう、看取りケア を実施している他の事業所との体験交流を行ったり、 研修の機会を増やすなどしながら、利用者や家族の希 望に対応できることを期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 月1回の勉強会の中で急変や事故発生時に備えての初動体制を復讐し実践力を身に付け、夜勤時の緊急対応についてもマニュアルを作成し常に見えるところに置いてある。また、事故発生時には事例検討を行い、再発防止に努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 利用者の歩行状態、移動手段が一目でわかるよう業務日誌に記載し共有。消火器の位置や避難経路を全職員が把握している。また、法人での避難訓練時には地域の方にも呼びかけ参加をお願いしている。 (外部評価) 敷地内にある併設施設と一緒に、地区住民も参加し昼夜を想定した防災訓練を実施している。特に夜間の災害時には、併設施設の職員からも協力が得られる体制が整っている。事業所は耐震性のある建築物のため、地区の福祉避難所にも指定され地域住民にも認知してもらっており、相互の協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの性格や生活歴を知ったうえで、人格を尊重しプライバシーを尊重しながら一番心地よい呼び名や言葉かけに心掛けている。また、職員の言動口調など、利用者の自尊心を傷つけないよう注意し合い意識向上を図っている。 (外部評価) 事業所の庭にあるサツマイモ畑は、利用者が懇切丁寧に手入れしており、利用者の生き生きと話す表情が印象的であった。事業所では、日頃の生活の中で声かけやコミュニケーションを大切にし、その人自身の思いや生活歴を理解した上で、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活や外出に関わる選択など、自己決定の場面を多く持ち、本人の希望や要望を引き出し意思を尊重するよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々の生活ペースを守りそれぞれの生活の中での楽しみを把握できるよう努め、できる限り希望に添えるよう支援している。家事仕事、軽作業などは自主性を汲み取りながらも無理のないよう言葉かけをし感謝の意を伝えている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎日の整容を基本とし、洋服や持ち物などから好みを把握し、その人らしいおしゃれができるよう支援している。また、馴染みの美容室や訪問理容師による身だしなみや、女性は起床時にお化粧を楽しまれている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 日々、食材の下ごしらえから参加して頂き、食べることへの楽しみや意欲に繋げている。また、月2回の自由食においては希望を聞きながら一緒に献立を考え、より楽しい食事ができるよう支援している。 (外部評価) 旬の食材、味付けや品数等栄養面に配慮しながら利用者の希望を取り入れて、法人で立てたメニューを臨機応変に変更しながら職員が調理している。そうめん流し用の長い竹を準備したり、誕生日には行事食を取り入れたり、個別対応の日に外食し好きなものを食べるなどして食事を楽しめるよう工夫している。また、職員も一緒に食卓を囲み、和やかな雰囲気ですべての食事ができるように配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士の作成した献立表を基に個々の状態を配慮した調理方法を行い、その日の健康状態により食事形態の変更もしながら美味しく健康的に摂取できるよう実践している。また、飲水摂取量や排泄を個別にチェックし、体重の増加や水分不足が無いよう健康管理に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、各利用者に合った口腔ケアを実施、ケア用品は夜勤帯での消毒を行い、常に清潔保持に努めている。歯科受診者は医師のアドバイスを受け、一人一人に合ったケアを実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して便秘の把握をし、水分補給や乳製品摂取各利用者のレベルに合わせ、日中はできる限りトイレでの排泄ができるよう個々の排泄パターンや兆候に合わせた声掛け誘導を行っている。また、なるべく布の下着を使い、必要であれば排泄用品を使い分け、洗浄や温かいタオルでの清拭を行い気持ち良く清潔保持ができる支援を行っている。 (外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するだけでなく、排泄物の量もチェックしながら排泄用品を使い分け支援している。日中はなるべくトイレで排泄ができるよう支援し、夜間は睡眠に配慮して適切な排泄用品を選択して一人ひとりに合わせた排泄介助に取り組んでいる。また、温かいおしぼりを常備し、衛生面にも配慮しながら排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表を活用して便秘の把握をし、水分補給や乳製品摂取等で対応し、適度な運動や腹部のマッサージを行い、必要に応じて主治医支持の下剤薬にて調整している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴できる環境を整え、本人の希望や個々の生活習慣に合わせた入浴を心掛けている。浴室内は安全第一で安心してくつろげる場所になるような対応に心掛けている。退浴後には足指間の乾燥や皮膚の保湿にも気を配り、強い拒否がある時にはタイミングを見計らったり手浴足浴や全身清拭にて対応している。 (外部評価) 浴槽の壁に飾り付けをし、それがきっかけで楽しい会話がはずむなど、利用者がリラックスし気持ちよく入浴できるよう心がけている。また、重度化し事業所の浴槽では入浴ができない場合は、家族と話し合いを持ちながら対応したり、シャワーチェアや滑り止めマットなどの福祉機器を活用し、安全に入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者に応じた居室配置に努め、日中の活動量を一人一人調節しながら休息も取り入れリズムを作っている。夕食後はテレビ鑑賞をしながらゆったり過ごせ、不眠時には暖かい飲み物の提供や足浴をし、できるだけ自然な安眠に繋がる工夫を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬は個別ケースに収納管理し、現在の服薬状況はファイルにセットし全職員が共有できるような体制を取っている。受診時には医師に上申し個々に合った処方となされている。服薬時には最後まで確認を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人一人の経験や生活習慣を大切に、趣味や特技、また、生きがいに繋がるような家事仕事や軽作業が当たり前にできるような支援を行っている。体操やレクリエーションは、日々の会話の中から興味のあるものを見出し、楽しみを作り笑いのある生活へと繋がっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日々の苑内外への散歩は、天候と利用者の状態、希望などその日の状況に応じ援助を行っている。また、年間計画には行事やドライブ外食等の外出を積極的に取り入れ皆で楽しむ時間を設け、日頃より日常会話に出てくる馴染みの場所や生活していた地域へ外出を行い、週に1回は一人ひとりの希望に実現に努めている。 (外部評価) 梅、桜、バラ、紫陽花、紅葉等季節の花々を楽しんだり、初詣、芋炊き、外食に出かけるなど、外出する機会を多く持てるよう支援している。また、日常的に事業所周辺の散歩や買い物など、外出できるよう配慮している。特に「個別対応の日」には、利用者の望む場所へ出かけることで、利用者の五感への刺激になり気分転換やストレス発散にもつながっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小遣いはホームの金庫で保管し小遣い帳にて管理を行い、希望時に職員と一緒に買い物や外食を楽しんで頂いている。外出時には個々の金銭管理能力に合わせた支援を行い買い物を楽しんでいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は本人の希望時に掛けられるようにしており、いつでもやりとりできる体制を取っている。正月前には年賀状を作成したりと、大切な人との連絡の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) フロアには利用者手作りの季節の壁面飾りや生け花をして頂き飾ることで、居心地良い環境づくりに心掛けている。庭での散歩や外気浴を促し、畑の花や野菜の成長を楽しみにし、ユニット内では好きなテレビや音楽を楽しまれるなど当たり前の生活を大切にしている。</p> <p>(外部評価) 共有空間には、月毎に利用者と職員合作の作品が飾りつけられ季節感がある。対面式のキッチンからは調理の音や臭いが伝わり、リビングには椅子席とソファ席があり、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。窓を開けると畑を見渡すことができ、野菜の収穫は利用者の楽しみになっている。また、トイレや浴槽、居室などの表示は利用者の意見を取り入れ分かりやすいよう工夫されている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 気の合う利用者同士でテーブルを囲み談話を楽しんだり、趣味のクロスワードや読書、書道、裁縫など思い思い好きなことを出来るよう工夫している。また、少人数で利用者同士がくつろいだり、一人でゆったり過ごせる空間づくりにも心がけている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 馴染みのある使い慣れたものを使用して頂き、心地よく暮らしていただけるよう支援している。また、家族や昔の写真、メッセージカード等を飾り、自分の部屋である意識がもてるよう工夫しながら、居心地の良い空間づくりに配慮している。</p> <p>(外部評価) 居室にはエアコン、ベッド、床頭台、整理たんす、椅子洗面台が備え付けられ、入り口には、自分の部屋だと分かるよう大きな表札が掲げられている。利用者がいつでもご先祖へ手を合わすことができるよう自宅から仏壇や位牌、遺影を持ち込めるようになっている。職員は、お供え用のご飯や水を替えたり、お花をお供えするなどの配慮をしており、利用者が安心して生活が送れるよう支援している。また、シーツと枕カバーは事業所から提供しており、衛生面を考慮し定期的に交換が行われている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 利用者一人一人の「できること」「わかること」の把握に努め、それらが安全に行えるよう動線確保を行い都度見直し、安心して生活できるよう目印などの工夫をし環境作りを行っている。</p>	